

実践記録（小5・国語）

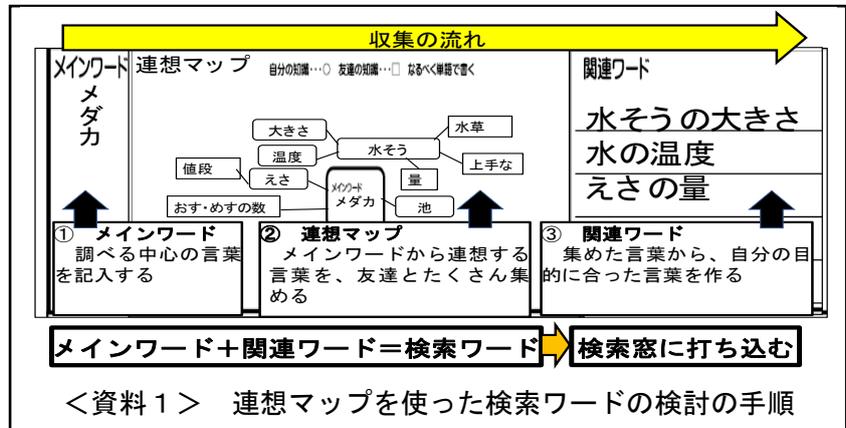
1 ねらい

連想マップを使って調べる内容を見付けやすい検索ワードを考えたり、マトリクス表を使って調べる内容そのものを精選したりすることで、目的に合った必要な情報だけを収集することができるようにする。

2 手立て

○ 「連想マップ」を使った検索ワードの決定

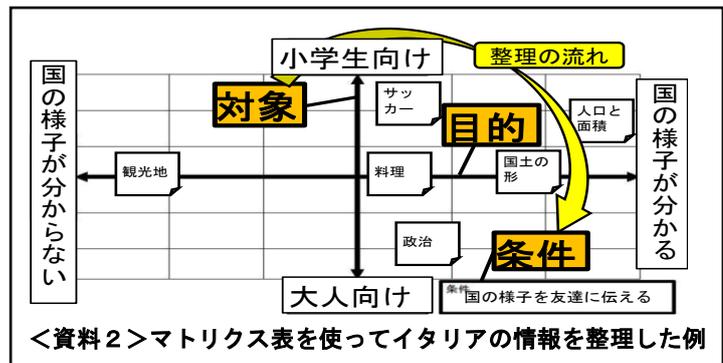
メインワード ①
に関連した言葉を連想マップ ② で広げていく。その中から、調べたい内容に合った関連ワード ③ を選ばせる。この①～③の過程により、的確な検索ワードを選ぶことができ、自分の目的



に合った情報を収集することができるようになる。 <資料1>

○ マトリクス表を使った伝える対象や目的の意識化

縦軸を伝える「対象」、横軸を伝える「目的」としたマトリクス表に、関連ワードが書かれた付箋を貼る。「条件」に合わせてこの付箋の場所を変化させることで、伝える対象や目的を意識化させ、条件に合わせて、情報を整理することができるようになる。



3 実践の様子「

「都道府県の魅力」を学級の友達に紹介する活動を行った。まず、インターネットで効率良く情報を検索するための「絞り込み検索」ができるようになるために、「関連ワード」の必要性を理解させた。その後、連想マップを活用し、メインワード（沖縄県）に関連したたくさんの関連ワード（「海」や「シークワサー」など）を書き出させた。

次に、たくさんの関連ワードを付箋に書き出すと、マトリクス表を使って調べる関連ワードを選択させた。ある児童は、「沖縄県で人気のあるもの」という条件のもと、「小学生」を対象に「沖縄県に行ってみたいと思わせる」という目的に合わせて関連ワードを選択していた。マトリクス表で関連ワードを整理すると、発表に使う情報を「シークワサー」「首里城」「水族館」の3つに絞り込むことができた。

最後に、選択した関連ワードとメインワードを組み合わせて、検索ワードを決定した。調べる範囲を限定できたことで「都道府県の魅力」という目的に合った情報を収集することができた。

4 成果と課題（成果…○、課題…●）

- 連想マップを使って検索ワードを考えさせたことで、児童の目的に合った情報を収集させることができた。また、マトリクス表を使って関連ワードを選択させたことで、「都道府県の魅力を伝える」という目的に合った情報を効率よく収集させることができた。
- 今回の実践では、ワークシート、付箋紙を使って情報を整理する力を育ててきたが、タブレット型PCだけでも情報を整理できるようにする必要がある。